

15th

りぶらサポータークラブ 15周年記念誌



りぶらサポータークラブは
様々な事業を企画運営し、
りぶらを活用する皆様の
サポートをしています。



生涯学習の拠点づくり



図書館機能サポート



交流の場づくり

1	りぶらサポータークラブ設立趣意
2～3	ご挨拶 歴代代表ご挨拶
4	出来事 平成20年度(2008)
5	平成21年度(2009)
6	平成22年度(2010)
7	平成23年度(2011)
8	平成24年度(2012)～平成25年度(2013)
9	平成26年度(2014)～平成27年度(2015)
10	平成28年度(2016)～平成29年度(2017)
11	平成30年度(2018)～令和元年度(2019)
12	令和2年度(2020)～令和3年度(2021)
13～14	事業年表
15	りぶらサポータークラブのこれから

【りぶらサポータークラブ発足の流れ】

- 平成15年・・・岡崎市市街地再活性化拠点整備計画
(2003) 『楽(がく)習(しゅう)交流(こうりゅう)を育む魅力ある生涯学習拠点』を目標とした総合施設建設計画が発表される。
- 平成16年～17年・・・施設計画を考える市民検討ワークショップ開始
(2004～2006) 図書館関係・市民活動団体・設計事務所・行政など関係者が集まり、施設構造、行いたいイベントなど全ての面で意見の出し合いが始まる。
- 平成18年・・・「市民ワークショップ」から「サポーター交流会」に名称が変更
(2006～2008) 2006年7月には施設建築が開始される。形作られるりぶらを見ながら、市民WSで育まれたアイディアを具体化しプロジェクトとして、開館に向けて実行段階に入る。LSCの前身となる。
- りぶらサポーター支援会議(SSC)始動
サポーター交流会の中から更なる有志でサポーターを支援するSSC会議がスタート。現在の運営委員会につながる。
- 平成20年5月31日・・・
(2008) 11月1日・・・りぶらサポータークラブ設立趣意書制定
11月8日 岡崎市市民交流プラザ・りぶら 開館
りぶらサポータークラブ設立総会

【りぶらサポータークラブ】Libra Supporter Club

りぶらサポータークラブ(以降LSC)はりぶらの発展、生涯学習の推進を皆様とともに企画運営する市民団体です。また、開館前からの活動実績評価、生涯学習の担い手として期待され、岡崎市第2次生涯学習推進計画、(続く第3次計画)に明記されています。

- ★「りぶら」の充実した機能を活用する事業の企画・運営を多くの市民とともに実施することで、新たな市民活動の担い手を育てる。
- ★市民団体のフットワークの良さで、自由な発想を公益性の範囲で最大限活かす。
- ★民・学・産・官の連携・協働を進め、「りぶら」を中心とした「交流」「活動の活性化」「生涯学習」の創造をサポートする。
- ★行政との関係は委託事業を遂行するとともに、会議の場では市民の声を伝え、より魅力的で充実した「りぶら」を目指せるよう協働する。

【りぶら】Libra

市民公募に応募があった中から、当時の管理運営委員会準備委員の投票によって決定した図書館交流プラザの愛称。

《Liberty(リバティ)・自由》+ 《Library(ライブラリー)・図書館、図書室》
《Libra・・・ラテン語で天秤(平等)》

代表 細井由起 （令和3年～）



「岡崎市図書館交流プラザ・りぶら」は市民や様々な方面の協力や努力によって、現在の姿があり、立ち上げや運営方法などが、先進的なモデルとして、各方面より視察に訪れるなど注目されてきました。また今日まで、りぶらサポータークラブに対して、市民やボランティア、市民団体、市職員の方々の協力をいただき、ここまで成長させていただいたことは感謝の念に堪えません。

さて、この15年で時代は変わり、特に新型コロナウイルスにより生活様式が変化し、りぶらも影響を受けました。りぶらサポータークラブにおいても、アフターコロナ時代を見据え、単に自分たちのやりたいことをするのではなく、市民の目線に立って、これからのりぶらには何が必要であるかを考え自由で平等、夢や理想のあるりぶらにすることによって『存在感と魅力あるりぶらサポータークラブ』を作っていきたいと思っています。



りぶらという希望を担う りぶらサポータークラブ

三矢勝司 元りぶらサポータープロジェクト事務局
岡崎まち育てセンター・リた

2004年に、りぶらのデザインワークショップ（施設空間のデザインや使い方の検討）が始まり、2005年には市民意見が反映された建築計画がままりました。私が所属するNPO岡崎まち育てセンター・リたは、こうしたワークショップ（以下、WS）の企画運営から、後に続くりぶらサポータープロジェクト（りぶらサポータークラブの前身）の活動支援事務局を担ってきました。

2006年から建物工事が始まりましたが、WSに参加していた市民の皆さんから「せっかく立派なハードができて、ソフトが充実していなければ意味がない」という指摘があり、そのソフト実現に向けて「行政任せにするのではなく、良いりぶら実現のために市民が関わってこう！」という機運が高まり、建物が出来上がる前から、りぶらのソフトづくりが始まりました。21世紀に相応しい図書館のあり方を研究提言する方々、りぶら界限（岡崎の中心部）に足を運んでもらうための情報発信を考える方々、りぶらホールのフル活用を構想する方々、外国人の暮らし支援とりぶらを考える方々など、様々な活動が始まりました。こうした活動が基盤となり、りぶらサポータークラブが生れ、近年では「りぶら講座」をはじめとした、各種の生涯学習活動の活性化に寄与していることは素晴らしいことです。あれから15年も、その志の灯を消さずに活動が続いてきたことを考えると、りぶらサポータークラブの存在は、岡崎あるいは愛知が誇る市民参加型公共施設運営の実践だと思っています。

りぶらは中心市街地（Quruwaエリア）の回遊行動を促進する拠点施設でもあります。今後、りぶら内の活動がまちにしみだし、あるいは、まちの新しい活動がりぶらにつながっていく、そうした新しい動きに向けて、りぶらサポータークラブがさらに発展的な活動を展開していくことを期待しています。



副代表 山田美代子（初代代表 平成20年11月～）

早いもので、「岡崎市図書館交流プラザ・りぶら」が開館して15年経ちました。開館前5年間、市民、建築専門家、市の職員が一堂に集まり、図書館機能を高め、市民交流ができ、周りの街を活性化する施設になるように話し合いました。その中から「りぶらサポータークラブ」が生まれ市民、市民団体、施設、職員の交流をサポートすることになりました。

単に自分たちのやりたいことをするのではなく、団体の提案を具体化したり、縦割りの仕事をつなげたり、施設を活用したりする役目をしていこうと動き出しました。始めは手探り状態でしたが、団体どうしのつながりを生むりぶらまつり、ワークショップで検討を進めていたりぶら利用者の託児、図書館の資料を使った映画鑑賞、図書館でのボランティア、階段を使用したコンサートなどを企画し、現在につながるりぶら講座も発足させました。

2011年には東北の大地震がありました。何かできることは無いかと考え、すぐに市民に呼びかけ、家で不要となっている本を集め、東北に送りました。身軽に動けるサポータークラブの良さでした。

いろいろなことがありましたが、多くの方々と話ができて、色々な事業が動き出し、楽しませていただきました。



副代表 杉浦仁美（2代目代表 平成27年度～）

りぶらは、「図書館を核とした複合施設」建築に向けて開かれた市民フォーラム(延べ500人もの参加を得た。)の中で、岡崎市民の夢と希望を詰め込んだ玉手箱のような施設。岡崎市の管理運営委員会準備会の中で、フォーラムで出た意見が検討され指針が示された「市民の求める形」が具現化した複合施設でした。

りぶらは、建物と言ってもハードのみならずソフトも充実した、「図書館」「活動支援」「文化創造」「交流」「男女共同参画」の5つ(現在は男女共同参画を除いた4つ。)の機能の縦割り行政からの脱却及び、各機能が横断的に機能する施設を目指し、市民との新しい連携によってその実現を目指したものでした。

私は、そのための市民側の組織として存在しているのが、私共りぶらサポータークラブであると理解しこれまで活動してまいりました。Libraの語源は、Liberty+Libraryの造語、自由な図書館でかつ平等を意味します。今後も、自由で平等、夢や理想のあるりぶらを目指して、りぶらサポータークラブの活動に寄与したいと思っております。

りぶらサポータークラブ設立。オープニングイベント開催。ワークショップでのプロジェクトの継続実施しました。

りぶらオープニングイベントとして、オープンして2か月間をかけて会議室、ホール、創作室、図書館、交流ブースなどすべての施設を使って、楽しい企画を展開しました。

- ★巨大アート製作 ★お茶・音楽・朗読コラボ
- ★バードハウスと本の展示★絵本とハーブ演奏
- ★ウオークラリー ★ユニバーサルツアー
- ★図書館まつり ★クリスマス絵本展示
- ★空き缶ドルナイトワークショップ など



りぶらサポータークラブ設立日(11月8日)には、「りぶらフォーラム・幻燈会～Libraができるまで」と題して、平成16年度の市民検討ワークショップからLibraの計画づくりをご指導いただいた愛知産業大学大学院の延藤康弘教授により、市民参加で設計から運営まで検討してきた経緯が幻燈にて映し出されました。

市内のいたるところで行われる行事情報の案内を、市民活動の中心「りぶら」に集約し、市民が容易に行事情報が入手できるようにすることで、市民の行事参加意欲を喚起するため、OKAZAKI情報コンビニラックを企画しました。



情報コンビニラック

「りぶら」の情報を集約し、りぶらで何が行われているかや、りぶらサポータークラブを多くの市民に知っていただき、活動に参加してもらえる仲間を増やすため、創刊準備号から現在まで、情報誌Libra I onを発行します。



「りぶら」を基点とした中心市街地の人の動きを喚起し、また、観光都市岡崎の魅力を再認識し、ふるさとへの愛着を深める活動として、茶畑和也氏（イラストレーター）の協力を得て、りぶら周辺のMAPと、イラストをテーマごとまとめた6種類のポストカードを作成しました。



ポストカードは6種類

裏面には岡崎のトリビアが満載

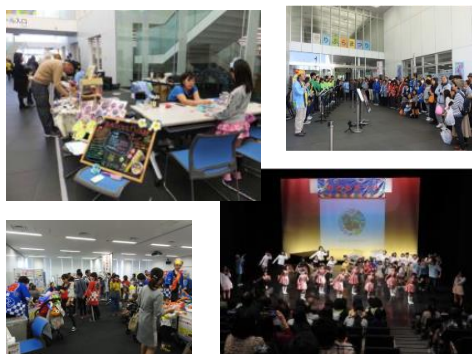


「りぶら」を利用する市民の中で、小さな子供を持つ利用者の利便性を高め、利用促進を図ることを目標にして「りぶらっこ☆ふあみりー」を企画・推進しました。平成22年度には、りぶらサポータークラブから独立、令和4年も継続されています。

公募したプロジェクト(事業)の中には、りぶらっこの様に独立したものがあります。企画運営をしながら後継者を育成し、独立運営できる道筋を作ることも、LSCの一つの目的です。

各プロジェクトを「広報」「交流」「研究」「施設活用」「活動育成」に分けて実施
シネマ・ド・りぶらなどが始まりました。

平成21年度は、開館直後でもあり知名度と仲間を増やすことに引き続き力を入れるため、情報誌に加え、HP開設、グッズ製作などに力を入れました。グッズに使われている「りぶらいおん」は市民ワークショップに参加した城北中の生徒さんによる原画を、LSCが忠実にデザイン化したもので、その後、事業ごとにキャラクターが産まれていきました。



開館前にプレイベントとして始まった「りぶらまつり」。当時のワークショップの拠点としていた、松坂屋の6階(現在はマンション)をりぶらに見立て開催したのが始まり。市民団体、学校、図書館、国際交流センターなどが参加した、LSCのコンセプトの一つ、民・学・産・官の連携・協働ができる事業でしたが、コロナ禍で中断が続いています。



図書館に所蔵するDVDを上映するとともに、関連する書籍・資料などを紹介する、「シネマ・ド・りぶら」もプロジェクトとして始まりました。図書館には膨大なDVDがありますが無料上映となると、著作権が切れた古い映画になりがちではありますが、映画ファンにはたまらない企画です。コロナ禍を乗り越え現在も進行中です。



千葉大学医学部出身の病理医、「チーム・バチスタの栄光」など、人気作家の海堂尊氏の講演会の企画は8月から3回にわたり、学生さんの実行委員会が、どんなことを海堂氏に聞きたいのか等の話し合いを重ね当日を迎えました。当日のパネルディスカッションでは学生の質問に丁寧に真剣に答えてくださいました。

LSCがイベント企画をするにあたり大切になるのが活動者です。会員制度が確立しない間は賛同者・ボランティアをいかに集め、運営していくかが課題となり、「ボランティアシステムを考える会」では、ボランティア研修会や、コーディネーション現場の視察を行いました。

このほか、「調べる学習講座」では、図書館の資料を利用して、個々で決めたテーマについてレポート作成しました。図書館職員に指導を仰ぎながら完成されたレポートは、第13回NPO図書館学校主催調べる学習賞コンクールに応募し、入賞をしました。

「冬のコンサート」「外国人が日本語の歌を歌うのど自慢大会」を開始。
生涯学習推進計画策定に参画、生涯学習講師養成講座開催。

平成22年度の活動は、全体事業として今後の核になっていく「冬のコンサート」「外国人が日本語の歌を歌うのど自慢大会」が開始されます。特筆すべきは、「第2次岡崎市生涯学習推進計画策定委員会」に参画したことで、生涯学習のあるべき姿が盛り込まれる計画に、LSCがパートナーとして明記(令和3年3月に発行された第3次計画にも明記)されており、生涯学習をリードする団体としての活動が期待されるようになっていきます。

策定委員会参画に象徴されるように、この年は生涯学習に力点を置いた行事を多く開催した年でした。中でも生涯学習養成講座は、愛知学泉大学教授岡田洋司氏による講演「生涯学習とは-岡崎市の学びの歴史から-」を始めとした、実践型の講座を開催。翌年からは「岡崎市学習シンクタンク」として定期的に研修会を開催し、「りぶら講座」へのヒントとなった事業でした。

年明け2月26日には「りぶらを活用した、これからの生涯学習」を開催。基調講演とパネルディスカッションで、りぶらにおける生涯学習とはどうあるべきかを考えました。

基調講演：小川俊彦 氏「生涯学習施設としてのりぶらについて」

斎藤秀平 氏「りぶらの役割とこれから....」

パネラー：米津 眞 氏、山田美代子(LSC)



冬のコンサートは、クリスマス時期に、コーラス団体、学生団体などが、自慢の歌声を聴かす、市民交流の活性化のイベントです。普段使いてはない、お堀通りの階段を舞台として使うことで、新しい施設の活用を提案する事業です。階段にこだわらず、こんな使い方はいかがでしょう？と提案できるのもLSCの特徴です。



外国人が日本語の歌を歌うのど自慢大会は、国際交流の拠点にもなる「りぶら」で、日本語を学ぶ外国人に日本語の歌を歌ってもらい交流をする始業でした。採点は歌唱力と語力が競われましたが年々パフォーマンスにも熱が入る参加者も多く、会場を沸かせていました。

この他、図書館職員や私たちサポーターと、利用者双方の啓蒙となり、市民交流も増進させる講演会「いい街づくり役立つ図書館をめざして(講演 森下芳則 氏)」の開催や、「りぶらまつり」「シネマドリぶら」など各プロジェクト事業を行いました。

また、りぶらの在り方や事業(イベントなど)を検討する行政主催の会議「図書館交流プラザ運営協議会」「図書館交流プラザ自主事業実行委員会」に参加し、利用者代表としての意見を述べる場にも参画しました。

この年から全てのイベント、行事の企画運営をLSC主体で行うようになりました。
七夕飾り、子ども遊びワークショップなど、行政・他団体の事業にも参画

これまで市民ワークショップ時代からお世話になっている「岡崎まち育てセンター」さんに、イベント運営などお世話になっていましたが、平成23年度から、これまでとともに運営し、学んできた企画・運営のノウハウを活かして「りぶらまつり」などの事務運営もLSCで行うことになりました。

また、昨年度まで企画の一部事業を募集して「プロジェクト」として行ってきましたが、呼び方を事業に統一し、運営委員の中で企画検討をするようになりました。



送られてきた本の整理



この年は東日本大震災が発生、各地で支援活動が展開される中、何かできることはないかと考え、図書館を活動の拠点にする私たちならではの支援として、「絵本を贈ろうプロジェクト」を実施。被災者を図書で支援するため、広く市民に呼びかけ、家で不要となった本を集め、被災地に贈りました。

仙台市「あゆむネット」

クレヨンハウス「HUG&READ プロジェクト」

福島県双葉町からの避難先：埼玉県加須市の旧騎西高校 など

昨年、「りぶら」を中心とした庭(康生地区等)の活用を目的とした、庭で遊ぼうプロジェクト内で、市街地活性化施設としての「りぶら」を中心とした生物に気づき、自然との調和のあり方を考えようと発足し、環境省生物多様性センターの「いきものみっけ」に参加し、いきものみっけシンポジウム(名古屋市科学館)での事例発表などを行った「りぶらいきものみっけ隊」は、23年度には独立事業となり定例での観察会・講演会等を行いました。環境省いきものみっけHP(現在廃止)でのいきもの報告ランキングでは、22年度3位、23年度2位と人気の企画となりました。



所狭しと遊び道具が並ぶホール

自分の背より高い竹に飾り付け



昨年度まで、りぶらの自主事業「子ども遊びワークショップ」「七夕がざり」にボランティアをコーディネートしてきましたが、この年から運営参画しました。

「子ども遊びワークショップ」では既製品のおもちゃ等を使うのではなく、使用済みのダンボールを使った迷路や、輪ゴム鉄砲、傘袋のロケットなど、折り紙など得意とする市民団体の協力もあり、子供たちの遊びの一日を企画し、好評を得ました。

「七夕飾り」では近隣の幼稚園児と笹竹に飾り付けをして楽しみました。

平成24年度 「りぶら講座」開講。「本の清掃」「書架整理」開始。
 平成25年度 狂言の鑑賞会を開き、定期の勉強会を開催しました。

平成24年度から、りぶらでの生涯学習をすること、市民の皆さんの学びのきっかけを作ること、市民・団体・事業者が持つ「特技や知識」を市民の皆さんの学びに活用すること、併せて、りぶら施設の活用を図ることを目的に「りぶら講座」が始まります。

初期は前期・後期・中期の三部制、近年は前期・後期の二部制、講師募集方法も試行錯誤しながら、LSCの主軸事業として現在に至ります。コロナ禍で一時講座数が減りましたが、約80～100講座が開講されています。

令和2年までは、りぶらで行うことが条件でしたが、令和3年からは地域で開催できる「出張りぶら講座」も開始し、より身近な生涯学習として発展が期待できます。



多彩な入門講座が講座が無料(一部有料)で受講できます



CDタグの貼り付け

図書の乾拭き



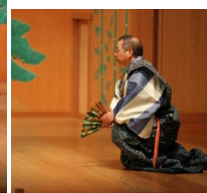
「本の清掃」はボランティア室に運ばれた本を、月2回2時間程度、固く絞った雑巾で汚れを落とし、CDには読み取りタグを貼る簡単な作業。次に借りる方が気持ちよく借りられるように作業しています。

「書架整理」は図書館の本などの背にある分類タグの順番通り並べ、埃を落とす作業です。曜日・時間を決めていないので、図書館の休館日以外は、いつでも活動していただけます。

また、平成24年度からは室町時代から続く日本最古の演劇で徳川家康も演じた狂言に触れていただくため大藏流の大藏基誠・茂山忠三郎氏（当時：茂山良暢氏）らを招いて「狂言勉強会・鑑賞会」を開催しました。

平成25年度になると、「狂言勉強会・鑑賞会」に加え、図書館の本を利用した「狂言を調べる学習会」を企画。勉強会・学習会では、定期的に竹内寛氏をお招きし、歴史、所作を教わり、これらを活かした、お稽古会も開かれました。

この間、鑑賞会も数回開催し、附子、盆山、寝音曲、菌(くさびら)など鑑賞できました。



26年度 開館7年で来館者1,000万人達成。映画「じんじん」の有料上映会開催。
 27年度 市長との市民対話集会参加。岐阜メディアコスモス視察。

平成26年度はイベント系の「りぶらまつり」「冬のコンサート」「外国人が日本語の歌を歌うのだ自慢大会」定例活動系の「本の清掃」「布絵本製作」「シネマドリぶら」を進める一方で、参画事業「図書館まつり」で『じんじん』上映会を行いました。

『じんじん』は総務省の後援で、全国一律料金の「スローシネマ方式」で上映されている、北海道剣淵町をメインロケ地として、絵本を真ん中に親子の絆を描いた映画でした。絵本や映画を通して感動を伝える活動をしている方々の中心になる「りぶら」での上映は意義のあったことでした。

平成27年度は、5月24日りぶらサポータークラブ総会后、りぶらフォーラムを開催しました。LSC運営委員の世代交代が進む中、改めて市民参加の経緯から、今日の活動までを振り返ることができました。

1. りぶらの市民参加デザインを振り返る

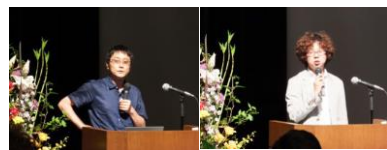
講師：三矢勝司氏（写真左）

2. 3つの事例から市民協働による施設運営を考える

講師：高野洋平氏（写真右）

3. パネルディスカッション・質疑など

三矢氏・高野氏・杉浦(りぶらサポータークラブ代表)



市民対話集会の様子

7月23日には27年度最初の「市民対話集会」に市民活動団体として参加しました。市長より市政の取り組みについての説明があり、その後、りぶらサポータークラブ代表の杉浦により活動紹介と、要望・提案の質疑応答を実施しました。

その他、6月21日には、(株)デンソーの社会貢献推進室の企画として毎年行われている「知って納得！ボランティア：岡崎地区見学会」の受け入れ先としてりぶらおよび市民活動センター・国際交流センターなどの紹介と、LSCの活動、ボランティア活動についての考え方などお話ししました。



デンソー社会貢献視察

また、12月13日に、研修の一環として「ぎふ・メディアコスモス」見学会を実施しました。りぶら同様の図書館複合施設で、総合施設としての「りぶら」を参考に制度設計をされ、サポーター活動は、LSCをモデルケースに活動されており、サポーターの方たちには、古くは私たちのワークショップからのつながりの方や、りぶらまつりにご参加いただいていたりと交流はありましたが、改めて当時を振り返りながら、建物のコンセプトや、サポーターの熱意に学ぶべき点が多々ありました。



ぎふ・メディアコスモス

28年度 布絵本製作開始。ハッピーハロウィンりぶら開催
29年度 武田邦彦先生講演会開催

平成28年度からは、子どもさんにも触って楽しめる絵本やサイコロなどを制作する、布絵本製作を月2回3時間ほどのペースで開始し現在も継続しています。製作した布絵本は図書館に贈呈し、大変喜ばれています。



りぶらに巨大な檻が出現

10月には東駐車場をメイン会場としたハロウィンイベントを開催しました。フェイスペインティング、仮想コンテストで子供から大人まで思い思いに自分を飾り、籠田公園までオカザえもんと一緒にパレードを行いました。

ステージではキッズダンスも披露されました。

翌年には昼と夜の部にかけて開催、オープニングイベントで企画された空き缶キャンドルが復活しました。



WithYou!フェスタ「すてきないきかたかんがえよう」には、岡崎市男女共同参画推進サポーターすいか隊とともに運営で参画。企業・学生・親子で楽しめるブースや、多方面で活躍する「素敵な女性の話」、男性の地域活動事例報告など、ダイバーシティ・マネジメントの推進男女共同参画意識の向上につながる催しとなりました。

また、この年は市政100周年にあたり、市の主導で、各団体が事業を持ち寄り、100の事業を行う「チャレンジ100」が行われました。LSCでは「困ったときには図書館へ」連続講座を開催し、各回に精通する講師を迎え、講演と対談で多角的に総合施設・図書館について考えました。

5月 りぶらの未来	神代浩×岡本真×戸松恵美
7月 仕事と図書館	秋元祥治×岡本真×戸松恵美
8月 子育てと図書	飛鷹正範×神代浩
10月 市民活動と図書館	三矢勝司×岡本真
12月 病気と図書館	金田亜可根×神代浩
2月 図書館の未来	神代浩×岡本真×水越克彦 (敬称略)



平成29年度は10月27日に、武田邦彦先生と「岡崎の未来を考える」開催しました。フジテレビ系列「ホンマでっか!TV」で武田先生が「愛知県岡崎市は発展しない」と発言されたのをきっかけに、その真意を伺いたいと企画。放映直後の9月12日からの広報にもかかわらず100名近い参加者を迎え、武田先生の第一声「吊し上げられにきました(笑)」で始まり、和気あいあいとした雰囲気の中、岡崎の未来についてのご提言をいただきました。

30年度 高校生が創るおかざき国際サマーフェスティバル開催
令和元年度 LSC10周年記念フォーラム「過去から未来へ」開催

りぶらを利用される方から、高校生が参加できるイベントが欲しいとの投げかけがあり、平成30年8月20日に、「高校生が創るおかざき国際サマーフェスティバル」を企画しました。

今後の学生活動にも有意義となるように、企画段階からKTCおおぞら高等学院に関わっていただき、国際文化交流をテーマに開催しました。

・パネルディスカッション(右上写真)

「グローバル化と若者の国際交流」(三塩菜摘氏・奈良健太郎氏)

- ・コーラス合唱：KTCおおぞら高等学院岡崎キャンパス
- ・愛知工業大学ジャグリングサークル
- ・愛知産業大学三河高等学校「三河乱舞」
- ・世界のゲーム・ウォークラリー
- ・フェアトレード品販売実施プログラム など



令和元年6月2日にりぶらサポータークラブ10周年記念行事として、10周年記念フォーラム「過去から未来へ」を開催しました。

りぶらの成り立ち(開館までの歩みとLSC立上げへの期待)、現状(設立から現在までの歩みと課題)について話し合いました。

司会：三矢勝司氏

パネラー：米津 眞氏(行政担当課職員/開館当時)

：野沢成裕氏(市民活動推進課職員/事業当時)

：天野 裕氏(建設当時市民ワークショップ運営)

：杉浦仁美、山田美代子(LSC)



同年8月1日には、岡崎ビジネスサポートセンターからの紹介で、視覚障害者のイーちゃんの心情の成長を軸に描く、ドキュメント映画「イーちゃんの白い杖」の上映会をりぶらホールで午前、午後の2回上映しました。小長谷唯織氏(イーちゃん)や橋本真理子監督、川口カズヒロ氏(音楽担当)にもトークショーに参加いただき、感動あり、笑いあいの貴重な時間となりました。

トークショーには情報保障制度を利用し、手話通訳・要約筆記に入っていました。又この映画はUDトーク対応となっており、映画本編は音声・字幕のガイドが利用できました。



令和2年度(2020)～令和3年度(2021)

令和2年度 図書館リサイクル本バザー開始。

令和3年度 ワールドファッションショー開催。

令和2年度はコロナ対策「りぶらまつり」「冬のコンサート」が中止その他のイベントも緊急事態宣言発令時は中止となるなど、混乱の年となりましたが、その中でも、図書館で不要となった書籍を一冊50円で販売し、その売上でバリアフリー本（大活字本）などを購入し、図書館に寄贈する「図書館リサイクル本バザー」が開始されました。

7月に籠田公園でプレ開催され、好評を受け、9月からは毎月第3火曜日13時半～16時にりぶら東玄関（冬季は館内）で開催しています。2年目の現在でも毎月来訪される方が増加しています。



リサイクル本バザーと寄贈の様子

令和3年度もコロナ禍の中で活動が制限され、「りぶらまつり」は中止となりました。当初、市街地再活性化と市民交流の活性化のため三土市と連携した企画をしていましたが、りぶらまつりが中止となり、10月25日に、三土市会場のシビコ西広場にLSCブースを出店し、併せてリサイクル本バザーを実施しました。

冬のコンサートも中止となりましたが、発声や人と人との接触が軽微となる企画に変更し「ワールドファッションショー」を開催しました。

自前の民族衣装を着た当事国出演者によるファッションショー、各国の民族衣装の展示・試着・クイズラリーを実施しました。

展示衣装は、のど自慢大会でお世話になっていた国際交流センターからお借りし、ランウェイ舞台演出には市民活動センターもののバンクにて提供されていた鉢植えをいただきました。



フォトコンテスト
グランプリ写真

この他、令和3年度はSDGsプロジェクトとして、「シトラスリボン啓発」を始めました。シトラスリボン活動は、コロナに感染された方々や、私たちの暮らしを支えてくださる方々が、差別や偏見を受けることがなく、暮らしの中で、「ただいま」「おかえり」と言い合える街でありますようにという思いを共有する運動です。岡崎市内にもこの思いが広がるよう、りぶら講座で講座を開き、リサイクル本バザーでもリボンを配布しました。

また、市民活動、図書館、散歩・交流あらゆる面で利用する「りぶら」をテーマにしたフォトコンテストを始めました。

事業年表

		2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	
		H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
運営・広報	総会・役員会・運営委員会									
	会員研修・懇親会									
	対話集会・講演会・りぶら交差点	海堂尊 森下芳則				市長				
	りぶらフォーラム									
	サポーターマネージメント									
	LibraIon									
	HP開設・更新		名称を広報							
	りぶらノベルティグッズの企画と販売		名称を広報に統一							
	OKAZAKI コンビニラック	名称を広報								
	りぶらまつり									
事業	生涯学習講師養成講座									
	生涯学習シンクタンク									
	初めましてサロン									
	りぶら講座									
	冬のコンサート									
	外国人が日本語の歌を歌うのど自慢大会									
	図書館未来企画(企画研究など)									
	困ったときには図書館へ									
	調べ学習									
	本の清掃									
	書架整理									
	布絵本製作									
	シネマドリぶら									
	生涯学習の企画運営									
	りぶらいおん体操制作									
	ワールドファッションショー									
	高校生が創るおかざき国際サマーフェスティバル									
	映画観賞会(イーちゃんの白い杖)									
	図書館リサイクル本バザー									
	りぶらフォトコンテスト									
	SDGsプロジェクト									
	15周年記念事業									
	サポータープロジェクト募集									
	オープニングイベント									
	りぶら・ぶらりマップ作成									
	庭で遊ぼう									
	いきものみつけ隊				庭で遊ぼうから派生					
	りぶらっこ☆ファミリー			LSCから独立						
	デジタル映像活用				LSCから独立					
	岡崎むかし語りの会			LSCから独立						
	ひざ掛けつくり				LSCから独立					
	つながろう”いのち”									
	チームHAPPY!パパ									
	施設活用状況の一覧表示システム化と利用者の行動観察					LSCから独立				
	りぶら市民セミナーの実践的研究					LSCから独立				
	詩と音楽の午後									
	絵本を贈ろう(東日本大震災支援)									
	りぶらを活用(企画研究など)									
	親子でトモ学									
	地域活動の心得を学ぼう									
	狂言鑑賞会・鑑賞会・勉強会									
参画事業	七夕飾り(H27) あかりワークショップ(H28)									
	子ども遊びWS									
	図書館まつり						じんじん上映			
	来観者1,000万人記念式典									
	withyouフェスタ									
	ハッピーハロウィンりぶら									
参画会議	QURUWA社会実験									
	図書館100周年事業準備委員会									
	図書館交流プラザ運営協議会									
	図書館協議会									
	岡崎市市民協働推進委員会									
	図書館交流プラザ自主事業実行委員会									
岡崎市生涯学習推進計画策定委員会					第二次					

[illegible]

市民協働推進課よりの受託範囲事業

生涯学習課よりの受託範囲事業

中央図書館よりの受託範囲事業

☐ 自主事業

ＬＳＣは行政からの委託事業を受託し、様々な事業を展開しています。組織の組み換えを機に令和三年度に、生涯学習課から受託する事業と、中央図書館から受託する事業に分かれました。どちらにも属さないものを自主事業に分類しましたが、全ての事業において「ＬＳＣがやりたい事業」と認識して活動しています。

りぶらサポータークラブのこれから

今後のりぶら・りぶらサポータークラブに課された役割を考える。

りぶらサポータークラブは成立より今日まで一貫して

- ★「りぶら」の充実した機能を活用する事業の企画・運営を多くの市民とともに実施することで、新たな市民活動の担い手を育てる。
 - ★市民団体のフットワークの良さで、自由な発想を公益性の範囲で最大限活かす。
 - ★民・学・産・官の連携・協働を進め、「りぶら」を中心とした「交流」「活動の活性化」「生涯学習」の創造をサポートする。
 - ★行政との関係は委託事業を遂行するとともに、会議の場では市民の声を伝え、より魅力的で充実した「りぶら」を目指せるよう協働する。
- を理念に活動してきました。

今後も、総合施設としての「りぶら」を利用する方のサポート、「りぶらを拠点とした中心市街地の活性化」に寄与できる、イベント等企画運営を進め、「民・学・産・官の連携・協働」「楽しく学べる広い意味での生涯学習」を追及していきます。

現在継続している「りぶら講座」「本の清掃」「書架整理」「布絵本製作」「シネマ・ド・りぶら」「リサイクル本バザー」「情報誌などの広報」の継続しつつ、コロナ禍で中止になった「りぶらまつり」「冬のコンサート」のようなりぶら全体を使用した事業の復活、過去のプロジェクト事業でも利用できるものからのリメイク、新規事業の募集など、りぶらを活用する皆様のためになるような企画運営を行っていきます。

りぶらサポータークラブの活動は、皆様のご協力あつての活動です。楽しく学べる事を、ぜひ一緒にやっていきましょう。



**市民ワークショップで産まれた
マスコットキャラクター**

名前：りぶらいおん

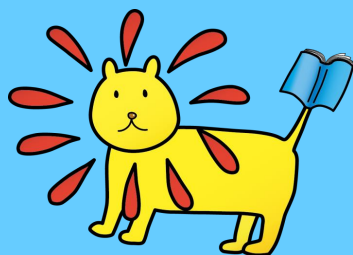
市民ワークショップに参加した城北中学校
生徒から産まれました。

性別：男の子 年齢：7才

誕生日：8月7日(は なび)

好きな食べ物：八丁味噌アイス

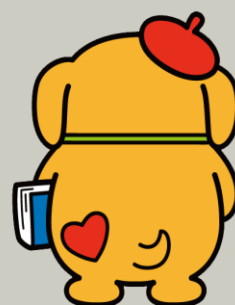
性格：本が大好き。しっぽの本をいつも読
んでいる。うれしいときに、しっぽの
本をパタパタさせる。



**15周年を記念して公募された
マスコットキャラクター**

名前：りぶらぶ

ラブラドル を元に作ったキャラクターで、
りぶらとラブラドル とラブ (love)を掛けて
います。子供たちはもちろんのこと幅広
い層に受け入れられるようにデザインしまし
た。また、なるべくシンプルになるように
心がけました。



2022年11月 発行

りぶらサポータークラブ

Mail : libra-sc@libra-sc.com

WEB : <https://www.libra-sc.jp/>